

NCP 第41回 オープンセミナー



日 時： 2018年2月25日 (日曜日) 9:45-13:00

場 所： 高見研修センター (スギヤマ薬品研修センター 2F)
〒464-0073 名古屋市千種区高見1-1-5 TEL.052-757-5411

参加費： 3,000 円 (学生：無 料) 定員： 90名

今回のセミナーは漢方薬をテーマに企画しました。

漢方薬の使用がOTCのみならず処方薬としても多剤処方が増えてきている昨今の状況において、薬剤師として漢方薬の安全使用に関する知識を習得することは、臨床薬剤師必須のテーマであると思います。

～運営委員より

■講演1 9:45-11:15

『漢方薬の処方箋を見た時に考えること

～漢方エキス製剤の安全使用について～』

講師：名城大学薬学部 教授 能勢 充彦 先生

漢方薬使用実態調査によると、現在漢方薬を処方している医師は89.0%に上り、平均処方種類数も8.4剤へと増加傾向を示すなど、漢方薬はわが国の医療において欠かすことのできない薬剤となっている(日漢協、2011年調べ)。一般に、医師が処方する漢方薬はいわゆるエキス製剤であり、148処方数を数える。一般用漢方処方としては294処方を数え、OTC市場には多種多様なエキス製剤が存在する。本講演では、医薬品としての漢方薬の位置づけやエキス製剤の種類や現状などを紹介し、漢方エキス製剤を安全かつ有効に活用するためにはどうすればよいかを考える機会としたい。とくに、上記294処方の約7割に配合されるカンソウは副作用として偽アルドステロン症を引き起こすことが知られているが、その詳細にはまだ不明な点も残されている。それらの点に対する取り組みや薬剤師・患者が漢方薬を安全に使用するために作成したツールについても紹介する。

休憩： 11:15 ~ 11:30

■講演2 11:30-13:00

『漢方処方の処方意図 ～処方せんの読み方・投薬のポイント～』

講師：ハーブ調剤薬局 金 兌勝(キム テスン) 先生

漢方は、西洋医学とは異なるベースを持った医学です。ですからその扱いも独自のものがあります。漢方独自の考え方に基づく用法を守るとその真価を發揮し、さらに安全性も数段に増します。独自の用法は決して難しい物ではなくとも素朴な哲学とフィーリングであると気付いて頂ければと思います。今回は、女性疾患によく用いられる代表的な漢方処方を題材に、構成生薬から処方意図を読み解く方法を解説いたします。

主催：NPO名古屋臨床薬剤師研究会

【アクセス】

今池駅より・③番出口より徒歩にて約10分
東部医療センター前

【お申込み方法】

両セミナーともHP：<http://www.nicp.jp/ncp/>
の参加申込みフォームよりお申込み下さい。
定員に達しない場合にのみ、当日受付を致します。

【連絡先】 NPO名古屋臨床薬剤師研究会 事務局

名古屋市千種区吹上1-2-15-5F (株)名古屋臨床薬理研究所内
Tel 052-733-7601 Fax 052-846-2888